

■ 2020年度 法人の活動について（※法人全体の報告から抜粋）

1) 参加障害のないまちづくりを目指し活動していきます。

2020年度は緊急事態宣言が発令されたコロナ禍でのスタートとなりました。

誰も経験したことがない状況の中、法人内事業所の情報を常に把握できるような体制を作り法人内で丁寧に連絡を取り合うことで、利用者の混乱ができるだけないように気を配ることに注力しました。

夏には法人の保育園を対象に自粛中の家庭状況を調査するアンケートを実施しました。

その結果から、コロナ禍でこれまで保育園や子育て支援に分散されていた子育ての負担が一気に家庭内に集中し、子どもの育ちに関する不安、家事や育児の役割分担に関する負担感などが大きくなったことが明らかになりました。

再び緊急事態宣言になったときに備えての改善点も確認する一方、保育園をはじめとした法人がこれまで立ち上げて運営してきた事業が今や社会を下支えするのに必要不可欠な社会インフラの一つになっているということを改めて感じました。

2) NPOである意味が見える事業展開をしていきます。

居住支援プロジェクトを立ち上げ2021年度開所の準備を進めました。そのためのクラウドファンディングを通じて支援者を広げる活動も行い、多くの賛同を得ることができました。法人外に支援の輪が広がってきた一方で、法人内の理解を得るために、内部へ発信し続ける必要もあると感じています。

■ 2021年度 法人の活動について（※法人全体の方針から抜粋）

《組織方針》

共生事業部を創出します。

事業運営やより良いあり方を中心に考える保育事業部、支援事業部に加えて、地域共生をテーマとして活動する共生事業部を創出し、それぞれが協働してミッションを遂行する取り組みを始めます。

《事業方針》

- 1) 保育事業、支援事業はそれぞれの事業の安定した運営に力を注ぎ、その事業運営の中でミッションにある「参加障害」について考え行動していきます。共生事業部はより身近に感じられるようになった社会の閉塞感や困窮に目を向けた活動を展開していきます。
- 2) 共生事業部は親を頼れない女子学生のための「下宿やWith」、短期居住支援事業「JIKKA」、来店型フードバンク「くろーばーマーケット」の3事業に取り組みます。法人外の運営委員を交えて共生事業部のありかたの定着を図っていきます。

《財務方針》

経営企画室に広報・ファンドレイジングの担当者を設置し、法人活動を法人内外に広報しながら広く支援が集まる仕組み作りに着手します。

■ 2020年度 下宿事業の活動について

事業名	本部事業（下宿）
2020年度 活動方針	1. 初めて迎えた入居者と良くコミュニケーションをとりながら福祉と自立を橋渡しできるように運営していきます。 2. 法人職員で結成されたボラ組織「おばちゃんズ」が良い加減のおせっかいを焼きながら学生生活を支えています。 3. 女子学生だけでなく、対象者をしぼらない緊急対応のためのもう一つのシェアハウスの事業の準備を進めています。
2020年度 活動報告	昨年度から継続の2名に加え新たな入居者を加えたことで、良い加減の距離を保ちつつ3名の関係づくりを意識しました。

	<p>コロナ禍で不安になることは無いが、アルバイトや学校の状況はどうかをミーティングだけではなくこまめに尋ね、経済的な困難を少しでも軽くするために家賃の減額をするなど、できることを検討しすぐに実行することが出来たことはよかったです。</p> <p>距離感を意識し干渉しすぎないように関わってきたが、卒業間近になって様々な問題が発覚し、ちょっとした相談や困っていることを話せる関係ができていなかったのではないかという課題が残りました。</p> <p>「おばちゃんズ」としての夕食づくりや掃除で顔を合わせるたびに、何気ない会話や一緒に料理を作るなどしながらコミュニケーションをとることができ、3名それぞれのコンディション把握をすることが出来良い効果が得られたと感じています。</p> <p>もう一つの居住支援「J I K K A」設立に向けて、居住支援プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングにも挑戦し目標額を超え多くの方の支援、応援をいただくことが出来ました。</p>
--	--

■ 2021年度 共生事業の活動について

事業名	共生事業（下宿やW I t h、J I K K A、くろーばーマーケット）
2020年度 活動方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでになく不安の強い社会となってしまった今、「子育て支援事業」を通じてのミッション追求から歩みをすすめ、地域社会の中で不安の中で暮らしている人たち、頼る場所が少ない人たちに向けて地域でともに生活していくことができる活動を展開します。 2. 事業実践するだけでなく、そこから見える必要性や課題を整理し発信していくことに力を入れ、同様な課題に対して取り組んでいる他団体とのネットワークを構築します。 3. 法人としての成熟期をリードする。法人職員の積極的、自発的な参加を増やすことで、労働の場であると同時に社会的な団体であることを参加者が意識し、それぞれがエンパワメントされ、利用者だけでなく関わる一人ひとりの育ちあいを目指します。 4. 大きくなった法人の理念や活動性を法人内に発信し、法人の成熟期を支える一助となります。

2020年度 活動内容	<p>◇内 容 ①親を頼れない学生のための下宿事業「下宿やWith」 ②短期居住支援事業「JIKKA」 ③来店型フードバンク「くろーばーマーケット」</p> <p>◇日 時 2021年4月1日から2022年3月31日</p> <p>◇人員体制 職員5名、パート2名、ボランティア8名</p> <p>◇この事業にかかる支出見込額 8,745,000円</p>
----------------	--

2020年度 下宿事業会計

収益

利用料：1,190,000円

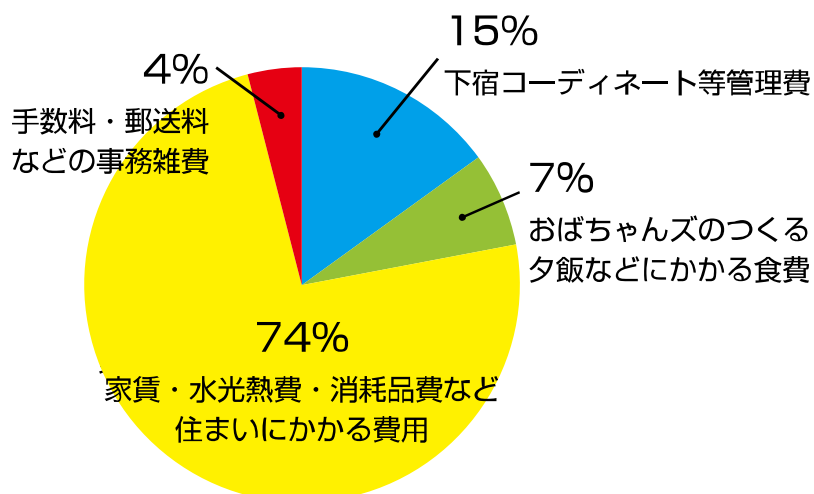
外部寄附金：787,388円（うち153,000円が下宿限定の寄附）

計 1,977,388円

寄附金のほかに、食材、商品券・カード、ミシン（入居者さんの学校活動用）などをご支援いただきました。

支出

2,382,351円



今年は新規入居者さんの歓迎会を行いました。また、成人式や卒業式のために小物購入や着付け等準備をしています。

※さくらんぼ全体の決算については、法人ホームページに掲載しております。

ぜひご覧ください。

https://www.sakuranbo.or.jp/doc/BSPL_2020.pdf



継続支援のお願い

いつもお力添えをありがとうございます。今年度も職員一同、充実した活動を進めてまいります。
引き続きご支援をいただけましたら幸甚です。

2021年 6 月吉日



特定非営利活動法人さくらんぼ

理事長 宮川 早苗

246-0022 横浜市瀬谷区三ツ境 17-1 日栄食品(株)三ツ境ビル

TEL:045-367-7224

FAX:045-367-7660

E-mail : voice@sakuranbo.or.jp